



2024年5月1日

横浜正金銀行の創設: 福澤諭吉と大隈重信

大阪市立大学名誉教授・経済学博士
山下 英次

旧東京銀行の前身である横浜正金銀行（YSB）は、1880年（明治13年）に創設されたが、そこには、福澤諭吉と大隈重信の二人が深くかかわった。当時、1873年から1880年まで長年にわたり大蔵卿（大臣）を務めていた大隈重信は、日本の国策として、貿易金融・外国為替に特化した銀行の必要性を深く認識し、内々に福澤諭吉に相談した。その結果、設立されたのが横浜正金銀行である。このように、慶應義塾と早稲田大学の創設者で明治の巨人二人が、YSBの創設に深くかかわったことは興味深い。

福澤は、慶應義塾で自分の教え子であった中村道太（1836～1921年）と小泉信（のぶ）吉（きち）（1849～1894年）の二人を紹介した。そして、中村は、YSBの初代頭取に、小泉は副頭取に、それぞれ就任した。小泉信吉は、後に慶應義塾塾長となるが、彼の息子で福澤の膝下で育った小泉信三（1888～1966年）もまた、戦前から戦後にかけて長年、慶應義塾塾長を務めることになる。幼少期に父を亡くした小泉信三は、一時期、福澤邸に身を寄せていたことがあるのである。

YSBの歴代頭取には、興味深い人物が就任している。例えば、第3代の白洲退蔵（1829～1891年）は、幕末に、摂津国有馬郡の三田藩の重役として藩政に関わった人物であるが、終戦直後、吉田茂首相の右腕として対GHQ交渉などを担当した白洲次郎の祖父に当たる。また、第5代頭取は高橋是清、第10代頭取は井上準之助である。

ところで、日本銀行創設の経緯も興味深い。横浜正金銀行ができてほどなくして、日本にも中央銀行が必要だということになった。一橋大学の寺西重郎名誉教授によると、当時、慶應義塾のグループは、横浜正金銀行がすでにあるので、これをわが国の中央銀行にしたらいと主張したそうである。それに対して、薩長中心の藩閥政府の人達は、新たに中央銀行を作るべしということで、両グループが対立した。最終的には、慶應義塾のグループが敗れ、日本銀行が、1882年（明治15年）に設立されたということである。

（IIMA メールマガジンへの寄稿）

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2024 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: Nihon Life Nihonbashi Bldg., 8F 2-13-12, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0027, Japan

〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-13-12 日本生命日本橋ビル 8 階

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>